

第1分科会

身構えないで学べる授業環境の構築を目指して

分科会概要：

学生の主体的対話的学習が重視され、グループワークやグループディスカッションを取り入れた授業カリキュラムが組まれている。このような学習の支援は大変難しい。アイスブレイクをしても、学生同士の交流が思うほど深まらず学生同士の作業もうまく進まない。講義等もAIの影響を受ける時代となったが、大学教職員のこういった役割は当面なくなりそうにはない。本分科会では、学生の心理的安全性という視点からのご研究、学生ファシリテーター養成のための取組みについて、最後に学生からアイスブレイクの必要性をそれぞれご教示いただき、身構えないで学べる授業環境をいかに構築するかみなさんと議論したい。

<プログラム>

10:00 趣旨説明

京都先端科学大学 経済経営学部 教授 右近 潤一 氏

10:10 講演1.「主体的・対話的で深い学びの土台となる心理的安全性」

関西大学 教育推進部 副部長 教授 山田 剛史 氏

10:30 講演2.「学生とともに考えつくりだす安心・安全の場 ～学生ファシリテーター養成のための取組について～」

京都産業大学 教育支援研究開発センターF 工房 嘱託職員 大島 和美 氏

10:50 講演3「アイスブレイク集を作成してみても—学生の立場から」

京都文教大学 学生

稲本 拓真 氏、山脇 莉子 氏、筒井 志俊 氏

11:10 休憩・質問受付

11:20 質疑応答・全体討論

第2分科会

大学教育の起爆剤?!アカデミック DX

分科会概要：

デジタルトランスフォーメーション（DX）という言葉も広く耳目に浸透してきている。しかしながら、この変革はどこに、どのように到来しているのか。多くの大学教職員にとって、DXを具体的に目にする機会は少なく、やや抽象的なイメージを耳にする機会の方が多いだろうか。そこで本分科会では、DXの取り組み事例を抑えつつ、DXによって（言葉通り）変革した大学教育の事例について共有し、議論を深めていく。

本分科会では、3人の先生にご登壇いただき、広く大学教育におけるDX（アカデミックDX）の状況と事例を報告いただき、その後の質疑応答を経て、参加者全員での議論を行う。

【キーワード】 デジタルトランスフォーメーション（DX）、高等教育、IT/ICT

<プログラム>

10:00 イン트로ダクション

京都橘大学 専任講師 多田泰紘 氏

10:10 講演 1. 「DXによって大学は変わるのか？」

大阪大学 全学教育推進機構 教授 村上正行 氏

10:35 講演 2. 「高等教育 DX の可能性と課題：北海道大学の事例から」

北海道大学 情報基盤センター 教授 重田勝介 氏

11:00 講演 3 「大学 IT 基盤センターの立場から考える教育 DX：京都大学の事例から」

京都大学 情報環境機構 准教授 森村吉貴 氏

11:25 休憩・質問受付

11:35 質疑応答

12:00 クロージング

第 3 分科会

大学教育における AI の活用ならびにその弊害

分科会概要：

現在、第三次人工知能ブームといわれ、ついに一般の方にも AI の活用の機会が広がってきている。教育現場への浸透も他ではなく、学ぶ側にも学ばせる側にもその恩恵は計り知れない。一方で、メリットばかりではなく様々なデメリットが指摘されているのも現状である。

そこで本分科会では、ChatGPT をはじめとした AI の仕組みやできること、できないこと、対面講義やオンライン講義などでの AI の活用事例、教育支援や今後の大学教育、身につけるべき技量などを 3 名の先生方にご講演いただきます。その後、3 名の先生方にはパネラーになっていただき、対面でご参加の方々からのご質問にお答えする形で議論を深めたい。

<プログラム>

10：00 趣旨説明 同志社大学 理工学部 教授 土屋 誠司 氏

10：10 講演 1. 「イマドキの AI を使いこなすための知識と心構え」
大阪工業大学 情報科学部 教授 鈴木 基之 氏

10：40 講演 2. 「情報リテラシー科目における AI 構築課題の取り組み事例」
徳島大学 理工学研究部 准教授 松本 和幸 氏

11：10 講演 3. 「国内外における AI によるプログラミング教育支援」
立命館大学 情報理工学部 講師 楨原 絵里奈 氏

11：40 パネルディスカッション

12：00 終了

第4分科会

大学における自校教育の効果と課題

分科会概要：

現在、多くの大学では、初年次教育の一環として自校教育・「建学の理念」科目が実施されているが、学生からすると、あまり興味のある分野でない場合も多く、その授業運営においては困難を伴うことがある。

ただ、各大学の「建学の理念」を具現化し、教育目標を達成していくためには、これらの授業で成果を上げていくことが重要なのではないだろうか。

そこで本分科会では、「大学における自校教育の効果と課題」をテーマとして、3名のパネリストに登壇していただき、研究成果及び実際の事例報告をお願いした。

そこから、実際に授業運営していく上で、どのような点に気をつけなければならないのか、困難な点をどのように解決していくのかということを考えていきたい。

<プログラム>

10：00 趣旨説明

佛教大学仏教学部仏教学科准教授 坪井 剛氏

10：05 講演1.「自校教育がもたらす効果—大学満足度や自校推奨意向の向上—」

岡山県立大学保健福祉学部現代福祉学科准教授 喜村仁詞氏

10：35 講演2.「クイズ形式を取り入れた自校教育の実践と学生の反応」

帝塚山大学全学教育開発センター准教授 元根朋美氏

11：05 講演3「宗教系私大の「建学の理念」科目の事例報告とその課題」

龍谷大学文学部仏教学科特任准教授 大谷由香氏

11：35 休憩・質問受付

11：40 全体討論・質疑応答

12：00 終了

第 5 分科会

ことばの教育はいかに変わる"べき"か

分科会概要：

いわゆる生成 AI 技術の進化に伴い、いま高等教育では従来の教育手法や価値観が見直され、新たな教育のあり方を模索する必要性が高まっている。高等教育におけることばの教育は、コミュニケーション能力を高めつつも異なる文化を理解できるグローバルな人材を育成する上で必要不可欠である。その一方で、生成 AI 技術の普及により、言語学習のアプローチや教育メソッドが変化し、従来の授業体系とは異なる形での学びも可能となっている。このような文脈の中で、本分科会では 2 名の専門家にご登壇いただき、高等教育の現状を振り返りつつ、今後のことばの教育や留学生支援の展開(何が変わるのか、いかに変わるのか)について、参加者とともにより理解を深めながら、未来のことばの教育の方向性を模索していきたい。

<プログラム>

10：00 趣旨説明

京都精華大学 共通教育機構 准教授 住田哲郎

10：10 講演「ChatGPT の激震は教育に何をもたらしうるのか？-外国語(英語)教育に焦点をあてて-」

立命館大学生命科学部 教授 山中司

10：40 討論

指定討論者：

東洋大学国際教育センター 准教授 牛窪隆太

11：10 休憩

11：20 質疑応答

11：50 総括

第 6 分科会

「ケア」に直面する学生を支えるために

分科会概要：

コロナ禍でエッセンシャルワーカーへ着目が集まったが、私たちの暮らしには「ケア」は不可欠なものである。学生本人の学びの場では、障がいのある学生や学生生活に悩みを抱える学生へのケアが求められる。また、学生の中には家族や他者のケアを担う役割として生活し、大学生活上の困難に直面する者もいる。

大学は教育機関として学生の学習を指導する役割を担うが、今日では、本来的な役割である教育指導を進めるためにも、学内の教職員との連携の中で「ケア」を必要としていたり、「ケア」の担い手として奮闘する学生を指導していくと同時に、学外の関係機関と協力をしながら学生のサポートを展開する必要がある。

本分科会では「大学生とケア」に焦点を当て、学生が「ケア」についてどのような問題に直面しているのか、また、大学は学生と「ケア」について、どのように取り組む必要があるのか、考えていきたい。

<プログラム>

- 10:00 趣旨説明 中野 加奈子 氏（大谷大学社会学部 准教授）
- 10:05 講演 1「当事者の視点からみえる大学生ケアラーの実態」
河西 優氏（立命館大学衣笠総合研究機構人間科学研究所 補助研究員 / Young Carers Action Research Project 発起人）
- 10:30 講演 2「ヤングケアラーと社会福祉職の専門職養成（大学教員の立場から）」
田中 智子氏（佛教大学社会福祉学部 教授）
- 10:55 講演 3「小規模私立大学の障がい学生支援体制—大谷大学における横断型チームの実践—」
鈴木 美佳子 氏（大谷大学 学生支援部（保健室）障がい学生支援チーム（横断型）チームリーダー）
- 11:30 休憩（質問、コメントの受け入れ）
- 11:40 ディスカッション・質疑応答
司会 中野 加奈子（大谷大学社会学部 准教授）

第 7 分科会

大学授業で ICT で AL しよう！

分科会概要：

大学教育においても様々な場面で Information and Communication Technology（情報通信技術、ICT）の活用が推奨されている。また、大学の授業におけるアクティブラーニング（AL）の導入も推奨されている。本分科会では、京都の大学から文系科目と理系科目のそれぞれの分野の授業における ICT の AL への活用事例を紹介して、参加者のみなさまにとって有益になるような情報を提供したい。さらに、質疑応答や総合討論などを通して、活用法の進展や今後の可能性についても議論する。本分科会に参加した後に、試しに一度活用してみようと思えるような分科会にしたい。対面での参加者も、ノート PC などを持ってきていただき、実際にいろいろと試してもらいたい。

<プログラム>

- 10:00 趣旨説明 京都産業大学 生命科学部 教授
／教育支援研究開発センター 副センター長 白鳥秀卓氏
- 10:05 講演 1. 「ICT を活用した学生のコラボレーション作業によるアクティブラーニングの事例 -難しくない事例のご紹介-」
京都先端科学大学 経済経営学部 講師 長澤直子氏
- 10:50 講演 2. 「グループワークによるデザイン演習科目でのオンラインツールの活用」
京都産業大学 情報理工学部 准教授 伊藤慎一郎氏
京都産業大学 情報理工学部 教授 平井重行氏
- 11:35 総合討論

第 8 分科会

生成 AI と人類の未来: 技術、教育、魂、共存 の可能性

分科会概要：

生成AI技術が急速に進化し、それに伴う影響や哲学的な問いが多数生まれている。特に教育分野では生成AIとの付き合いかが大きな課題となっている。この分科会では、生成AIの存在とその意味について深く掘り下げ、多角的な視点からの議論を行う。単に技術的な側面からではなく、人類の文化、社会、哲学、未来、教育におけるAIの位置付けについて議論したい。本分科会は、ただの講演会ではなく、積極的なディスカッションや質疑応答の時間も設けており、参加者には、自らの意見や疑問も積極的に投げかけていただきたい。先進的なテクノロジーが我々の社会へもたらす影響に関して真摯に向き合いたい方の参加を心より期待する。

<プログラム>

10:00-10:10 趣旨説明 同志社女子大学 学芸学部 教授 川田隆雄氏

10:10-10:35 講演 1. 「AI/ロボットとの未来共棲社会をどう生き抜くか？」
大阪国際工科専門職大学 副学長 浅田稔氏

10:35-11:00 講演 2. 「ChatGPT は何だと思われているのか？」
—大学生を対象とした質問紙調査をもとにした技術哲学的考察—
特定国立研究開発法人理化学研究所 革新知能統合研究センター 特別研究員
水上拓哉氏

11:00-11:25 講演 3. 「AI の社会実装 —消費者行動研究と AI 教育からの気づき—」
同志社女子大学 現代社会学部社会システム学科 助教 金子雄太氏

11:25-11:30 休憩

11:30-12:00 質疑応答

第9分科会

授業評価アンケートの 自由記述の自動分類とその応用

分科会概要：

現在多くの大学で授業評価アンケートが実施されているが、自由記述のデータはどのように分析すれば良いのだろうか。本分科会では、登壇者より「授業評価アンケートの自由記述を自動分類するための Web システム」を紹介いただく。このシステムを用いれば、各自自由記述に、その内容に対応した 60 数種類のカテゴリが付与される。参加者には、ご自身の自由記述データを用意いただき、システムを使っでの分析を体験していただく。その後、参加者間で情報共有し、授業評価アンケートの更なる活用方法について模索したい。

※本分科会はハンズオン形式で行われますので、【ノートパソコン】と【分析したい授業評価アンケートの自由記述データ】をご持参ください。自由記述に紐付いた属性情報（例：自由記述が書かれた科目の科目群、自由記述を書いた学生の成績など）があれば、属性ごとの記述内容の違いの分析も体験できます。なお、全学のデータをお持ちでない方は、ご自身が担当する授業の自由記述データでもご参加いただけます。

<プログラム>

14：00 開会・趣旨説明

京都外国語大学 共通教育機構 講師 根岸 千悠 氏

14：05 ワークショップ「授業評価アンケートの自由記述の自動分類とその応用」

東北大学 高度教養教育・学生支援機構 講師 松河 秀哉 氏

16：00 閉会

第 10 分科会

どういたします？ これからのキャリア教育と 就職支援

分科会概要：

ここ数年、キャリア教育や就職活動を取り巻く状況は変化が著しい。例えば、三省合意によるインターンシップ等の類型化、就職活動および就職支援のオンライン化、「ガクチカ」のネタづくりが目的化する学生の増加など、枚挙にいとまがない。

本分科会はコロナ禍を経た現在におけるキャリア教育の取組みおよび就職支援の現状を共有することを目的とし、以下の3名にご発表をお願いする。

まず、松高氏には、タイプ3に分類されるインターンシップ科目の実践報告と、これからのインターンシップとキャリア教育の関係について。続く岡本氏には、コロナ禍を経た最新の就職活動／採用活動の状況とトレンドについて。最後の代崎氏には、学生の就職活動を支援する職員の立場から、最近の学生の様子と支援の難しさについて、それぞれご発表頂く。

発表後には会場参加者でグループワークを行い、そこで出た意見をもとに全体ディスカッションを行う予定である。これらの内容をもとに、これからのキャリア教育および就職支援のあり方を未来志向で検討したい。

<プログラム>

- 14：00 趣旨説明 京都文教大学 総合社会学部 助教 中西勝彦氏
- 14：05 講演 1.「タイプ3のインターンシップとキャリア教育のこれから」
京都産業大学 経営学部 准教授 松高政氏
- 14：30 講演 2.「就職／採用活動の最新動向と今後の見通し」
株式会社マイナビ 就職情報事業本部 就職ナビ統括本部 関西ブロック
京都キャリアサポート1課 課長 岡本鈴佳氏
- 14：55 講演 3.「目の前にいる学生とどう向き合うか」
京都文教大学・京都文教短期大学 就職部就職進路課 係長 代崎拓也氏
- 15：20 全体ディスカッション
- 15：40 (対面参加者のみ) グループワーク：感想と経験と知恵をわかち合う

第 11 分科会

学習指導要領が変わると大学教育も変わる？

分科会概要：

「子どもたちが自分で未来を切りひらいていけるように、生きていくための資質・能力を育んでいく」ことを重視した新学習指導要領を履修した学生の大学入学がもう目前に迫っている。「探究活動・言語活動・情報活用能力の育成」を重視した探究型学習を経験した学生に対する大学での教育はどうするのか、どうすべきなのか。少子化がすすむ現代社会での大学の生き残り戦略として“特色のある大学教育の実践”が求められる昨今ではあるが、新学習指導要領を受けて大学教育を変革する必要があるのか、ないのか。必要であるなら、どのような視点での改革が求められるのか。昨年度の分科会に引き続きとなるが、新学習指導要領を履修した学生の大学教育を理系と文系の双方向より考えたい。

<プログラム>

14：00 趣旨説明 京都薬科大学 准教授 石原 慶一氏

14：05 講演 1. 「2017・2018 年改訂学習指導要領の特徴と高大接続の課題」
京都大学 大学院教育学研究科 教授 西岡 加名恵氏

14：35 講演 2. 「物理教育における高大接続の視点」
京都教育大学 理学科 教授 谷口 和成氏

15：05 講演 3 「そもそも探究とは何か？ それに基づく教育とは何か？」
京都大学 学際融合教育研究推進センター 准教授 宮野 公樹氏

15：35 休憩

15：45 総合討論

第 12 分科会

“人・AI 新世”の時代の学びとその支援

分科会概要:

人の脳と AI(人工知能)が深く融合する時代(=“人・AI 新世”)を迎えつつある中、高等教育機関における「教育」は、「学習者それぞれの学びへの支援」の体系へと自らを根源的に再構築していく必要に迫られようとしている。それは、例えば「単位制度」に象徴される現行カリキュラム構築原理への問い直し、キャンパスや教室の設計理念の再発見などへと展開していくことになるであろう。AI はその中で、学習者個々の「学習成果の可視化」を支えるツール／環境として重要な位置を占めることになると思われる。

本分科会ではこのような問題意識に基づき、向こう 5 年程度の時間軸の中で、高等教育機関における「学習」と「その支援」、そして「ツール／環境」のあり方を考えたい。

<プログラム>

14:00 趣旨説明 龍谷大学 准教授 築地達郎氏

14:05 報告 1. 「生成 AI 時代の最先端 LMS と開発動向
——米国のデータドリブン事例を中心に」
米インストラクチュア社 Manager 玉木和将氏

14:20 報告 2. 「カリキュラム・授業設計から考えるこれからの大学での学び:
ミネルバ大学を事例に」
中央大学 特任助教・教育力研究開発機構研究員 澁川幸加氏

14:35 報告 3. 「AI の急激な進化に大学はどのように向き合うか？」
関西学院大学 副学長・教授 巳波弘佳氏

14:50 休憩

14:55 全体討論&質疑応答